

平成 29 年度 第 2 回諏訪市保育所専門委員会 議事録

日 時 平成 30 年 1 月 30 日（火） 午前 10 時から
場 所 諏訪市役所 302 会議室
主 席 者 保育所専門委員 8 名
事務局 4 名

1. 開会
2. 議事 (1) 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
(2) 平成 30 年度入所希望者数と受入体制について
(3) 「本市における公立保育所の今後のあり方について」
(4) その他
3. 閉会

【 議 事 】

(1) こども・子育て支援事業計画の進捗状況

----- 事務局より説明 -----

- ・ 計画関連事業の進捗状況について事務局より説明（詳細省略項目のみ記載）
 1. 保育所・幼稚園の多様な保育及び幼児教育の充実（12 事業）
 2. 地域社会全体での子育て支援の充実（15 事業）
 3. 安心して子育てできる環境づくり（69 事業）
 4. 子育てと仕事が両立できる環境づくり（15 事業）

《事務局》

- ・ ただいま説明しました内容について、質問や意見などがあれば 2 月 5 日までに事務局へ連絡ください。担当課と調整のうえ、次回以降の専門委員会で回答させていただきます。事業内容では、保育所保育に関連した項目・内容も多くありますので、もう一度確認いただき、今後の議論につなげていただきたいと思います。

《委員長》

- ・ ただいま事務局から事業計画に基づく施策ごとの事業の進捗状況について説明がありました。質問等の受付は 2 月 5 日までとのことですが、今日の時点で確認しておきたいことなどがあればご発言ください。

《委員》

- ・ No. 19 「子育てサロン」について少し補足をさせていただきます。わたしが所属する団

体では、社会福祉協議会に支援していただきながら、12月までに3回、諏訪市ふれあいの家で子育てサロンを開催しました。各回、概ね10～15組の親子が参加していますが、継続して利用される方よりも、新規に参加してくださる方が多いように思います。今年度最後のサロンはリトミックを計画しています。2月15日の開催を予定しています。

(2) 平成30年度入所希望者数と受入体制について

――― 事務局より説明 ―――

- ・ 1月22日現在 公立・私立保育園及び事業所内保育事業所における新年度の入園予定児童数は、三歳未満児333名、三歳以上児1,024名、計1,357名となっています。聖母幼稚園、福祉大保育園の受け入れ状況は表のとおりです。
- ・ 各年度4月1日現在の就園児童数を比較すると、前年に比較して三歳未満児で22名の増、三歳以上児で25名の減、全体で3名の減となっています。
- ・ 園ごとの定員と入園児童数については、資料で確認してください。

《委員長》

- ・ ただいま新年度の 保育所の入所希望者数の状況について報告がありました。この件について、委員から質問などはございませんか。

《委員》

- ・ 入所希望者数と受入体制の資料についてお伺いします。資料の一部に福祉大保育園と聖母幼稚園の数値が記載されていません。これには何か理由がありますか。

《事務局》

- ・ 以前もこの委員会でご指摘をいただき、諏訪市の就園児童全体について記載ができるよう努めているところですが、「子ども・子育て支援事業計画」の進行管理の中で取り扱っていることもあり、1号認定子ども～3号認定子どもまで、同じ給付の仕組みの中で諏訪市が入所を決定する児童の状況を中心に報告させていただいています。ご理解ください。
- ・ なお、さきほどの説明の補足となりますが、赤十字病院園「きらり」には従業員枠と地域枠の受け入れがあります。資料では地域枠についてのみ記載しています。

《委員》

- ・ 保育所に入所する前の児童のお母さんたちの中には、「2歳くらいのうちから入園させないと、3歳になってからは希望する園に入れない。」といった不安を口にする方がいます。3歳になって、どこの保育園にも入れないということはないと思うのですが、お母さんにしてみれば、近くの保育所に入れさせたいという思いは強いのではないでし

ようか。

- ・ そのような保護者の不安について、こども課ではどの程度、把握しているのでしょうか。また、どのようにお考えなのかお伺いしたいと思います。

《事務局》

- ・ 全国的なニュースや都市部などでは、保育所に近い方が入所に有利だから引っ越すというようなことを聞きますが、当市において委員がおっしゃるような声は把握していませんでした。少し整理をしてみる必要があると思いました。
- ・ なお、保育所の入所を決定するにあたって、審査の基準（利用調整基準）を設けています。現行の基準では、ひとり親家庭など保護者等の状況によってそれぞれ指数が決められており、夫婦共働きで長時間働いている家庭やひとり親家庭の点数（保育の必要性）などは高くなるようになっています。
- ・ 入所審査では、現行の審査基準に従い公正な判断をしているところですが、どういうご家庭にとって保育の必要性が高いのかなどをについて意見がいただけるようであれば、今後の参考にさせていただきます。

《委員》

- ・ 私もお母さんたちから同様の意見をいろいろなところで聞きます。さきほど説明があった新年度の保育所毎の入所児童の見込み数は、希望をして入れた人数でしょうか、それとも、第2希望などを考慮して利用調整がされた人数なのでしょうか。
- ・ きょうだいで別々の保育園になってしまうというのは、保護者にとっての負担も大きくなってしまいます。行事などでもそうなのですが、同じ日では困ってしまいますし、別々の日でも、それぞれに仕事を休まなくてはならず困ってしまう。
- ・ 特にN保育園とK保育園ではそのような話をよく聞きますが、〇〇の保育園に行きたかったけど行けなかった、という声は多いのではないのでしょうか。

《事務局》

- ・ すべてのご家庭の希望がかなえばよいのですが、お子さまが増えているような地域などでは全員が希望通りに入所できているわけではございません。30年度の入所でみえますと、N保育所では3歳児クラスで定員を上回る申し込みがありました。K保育所では申込みは定員を下回ったのですが、第一希望のN保育所に入れなかった方のうち、最寄りの保育所ということでご案内させていただいた方もいます。他の地区を見ても、例えばT保育所では希望者が上回り、近隣の保育所に案内をさせていただいた方もいます。
- ・ 受付などでお話を聞いていまして、家から近い保育所に通わせたいという保護者は多くいますし、就学のことを考えて、なるべく小学校区内の地元の保育所に通わせたいという保護者が多いと理解しています。
- ・ 市全体で設定している入所定員は利用希望者数を上回っているわけですが、希望者の増

減により入所の調整が必要となる保育所もあります。一方で、地域によって保育を希望する子どもの数にだいぶ偏りがみられるようになってきています。どの地域にどれだけの規模の保育園が必要なのかといったお考えも、「あり方検討」の中でお伺いできればと思います。

《委員》

- ・ 私はN地域に住んでいます。その中のS区によく行くのですが、行くたびに新しい家が建っていたり、分譲がされていたりして、その様子を見ていますと子どもの数はまだ増えていくのだと思っています。同じ地域のF区もS区ほどではないのですが、住むには便利な地域ですから家屋の建替えなども進んでいるようです。その地域から近い保育所は3カ所ほどあるのですが、なぜか選ばれなくなってきている保育所もあるようです。お母さんたちの選択の基準がどこにあるのかはよくわかりませんが、新しい家が増えていきますので、これからもK園への希望は増えていくと感じています。

《委員》

- ・ これまで質問のあった二人の委員の発言を聞いていて、疑問に思ったことがあります。それは入所の審査基準のことなのですが、審査会の利用基準に決められている点数を変えていかないと希望の保育所に入れない児童がいるということになるのでしょうか。

《事務局》

- ・ 希望が特定の保育所に集中する傾向がありますので、基準点を見直しても希望通りにならない方が出てきてしまう可能性はあります。12月に民生児童委員さんにも出席していただき入所審査会を開いていますが、私たちが把握している内容以外の情報などあれば参考にさせていただき、利用調整基準に照らしながら入所の調整をさせていただいているところです。
- ・ 現在の市内の保育所の配置、キャパでは、入所の調整が必要な場合が出てきてしまうのですが、保育所を選択するにあたり、保育の必要性が高い家庭の希望が優先されていないとするならば、基準となる指数を見直していくことが必要になるかもしれません。

《委員長》

- ・ そのあたりは、利用者にとって良い方向で協議をしていただきたいと思います。そのような内容も含めて、あらためて質問票に書いていただければ、次回以降の話し合いにかなげていけると思います。

(3)「本市における公立保育所の今後のあり方」について

――― 事務局より説明 ―――

- ・ 前回の委員会で資料提供が求められていた件について、事務局から報告させていただく
- ・ 一点目は、保育ニーズの将来推計について。保育ニーズは出生率や景気経済動向、女性の就業の状況などに影響されるため、推計することはたいへん難しいが、民間シンクタンクが調査してまとめたデータが、行政雑誌で紹介されていたので、一部抜粋して参考までに提出したい。
- ・ この調査は、県ごとにも推計値がまとめられており、長野県の将来推計の数値をグラフに示したのが資料のとおり。人口減少により保育ニーズは減少傾向に推移するが、保育所ニーズは 2040 年頃まで若干減少傾向にあるがほぼ横ばいに推移する（出生中位、就業中位の標準ケース）とされている。
- ・ 二点目は、公立保育所の経営状況について。公立保育所の場合は、地域子ども子育て支援事業を除き、保育所運営経費については原則として国県からの補助交付金がなく、保育料と一般財源で賄われている。
- ・ 公立保育所の経営状況については、公共施設総合管理計画に使用している「施設カルテ」の数値を保育園の規模別にまとめたものを表に示した。公立 13 園の単純平均で、歳入 25,494 千円、歳出 95,047 千円で、歳入歳出差引（収支）は△69,553 千円となっている。
- ・ 職員数については、人事管理局がまとめた資料を提供させていただくが、保育士の人数が類似団体に比較して多いのが諏訪市の特徴である。

《委員》

- ・ さまざまな資料から、当面は人口が減っていくことが分かっています。このまま人口が減少していった場合、諏訪市では具体的にどのような対策を取ろうとしているのでしょうか。その考え方と私たち委員会が提出した答申があまりにもかけ離れてしまっていたら、意味がないような気がします。市の全体的な方向性が見えてこない、私たちの議論の方向性も見えてこないように思いますがいかがでしょうか。

《事務局》

- ・ 子どもたちのための大切な支援についての話し合いですから、財源や効率性の視点からだけではなく、ぜひ、「子どもたちのために」の視点で議論を進めてもらいたいと思っています。前回、委員さんからも「子どもが主体で」というお言葉をいただきましたが、そのことを大切にしないではいけないと考えています。
- ・ 一方で、諏訪市では公共施設全体のマネジメント取り組むための「諏訪市公共施設等総合管理計画」を策定しています。この計画では、施設をそのまま保有していこうとすると年間で 28 億 9 千万円の不足が生ずると推測されており、平成 29 年度から 10 年間で施設全体の延床面積を 10%以上削減する数値目標が示されています。もちろんこの計画には、保育施設も含まれていますので全くここから外れて考えていくわけにはいかな

いとも思っています。

- ・ そこには縮小の考え方もあれば、子どもの育ちを考えて拡充しなくてはいけないこともあると思われます。私立保育所との連携もこれまで以上に重要になってくると思いますが、市の方向性をあげるとすれ、総合計画やただいまお伝えしました総合管理計画などになります。

《委員》

- ・ 施設の維持更新にそんなにも経費が必要であるのかとビックリしましたが、それにあわせるようにして、子ども・子育てに関することも同じように減らしていったらいけないと強く思いました。
- ・ 子どもを育てていく、養育していくということは未来への「投資」だと思います。そこにお金を充てていかななくては、その先につながっていきません。とても時間と忍耐が必要なことですが、今こそそこに力を注がなくてはいけないと感じています。保育・幼児教育は小学校にもつながるでしょうし、子どもたちが、ここで学び、ここで育ったということが感じられるようになれば、それは必ず還元されていくと思いますので、そこにはしっかりとお金を使ってほしいと思います。

《委員》

- ・ 委員会の進め方についての意見となりますが、保育のあり方はひと口では言い表せない難しい議論だと考えていますので、議論のポイントを提示していただくと助かります。どういうスケジュールで進めていくのか、この時期にはこういう議論を、次にどういう議論をといったような目安を持つことが大切ではないでしょうか。
- ・ それと女性の就業率ですが、諏訪の地域性なども考えますと、よほど景気の悪い時代が来ない限りは、ものすごく下がるということはないと思います。そうなると、今までのように未満児の部屋を増やしていただくだけでは限界が出てくるかもしれません。ではどうしたら良いか、その手立てを考えていかなければいけないと思います。
- ・ 前にも少しお話ししましたが、諏訪市にはいろいろな幼稚園とか保育園があります。公立の保育園が多いので、公立園のことばかりが言われてしまっていますが、民間の力を活用していくことも考えてみなくてはいけないのではないのでしょうか。長野市などではいろいろな形態の保育園があって、企業主導型の保育園もあるようです。長野市は人口が多いですから、そういったニーズも多いとは思いますが、公立だけに頼らない保育も検討していかなくてはいけないでしょうね。都会に行くともっと保育は多彩です。私の知人でベビーシッターしている方がいますが、著名人などは信頼のできるベビーシッターをつけて、保育園には出していない人も多いようです。話が飛躍しすぎてしまいましたが、いろいろな保育、子育て支援の方法を考えてみる必要があると思います。
- ・ もう一点は保育施設の整備についてです。市には公共施設の延床面積を 10%削減しなくてはいけない目標はありますが、保育園の考え方は他の施設と少し違うのではないかと

と思っています。小規模園の方がコストが高いから統廃合するといった考えもあると思いますが、子どもさんにとっての保育園、地域にとっての保育園ということを見ると、経費比較だけで安易に統廃合を進めましょうではなく、保育園というものの本質を踏まえた議論をしなくてはいけないのだと思います。

《委員》

- ・ 事務局の説明の中で、諏訪市の保育所の職員数が、他の団体に比べて多いというのがありました。そこで働いている人たちの条件というのは果たしてどうなのでしょう。全国的にも保育士不足が課題となっていますが、保育士のなり手が少なく、募集をかけても正規で保育士をやりたいという人は年々減っています。学生の中には最初から正規の職員でなくてもよいといった考え方をしている人もいます。待機児童を出さない運営も大切ですが、保育士を目指して専門の資格を学んできた人たちが、やりがいをもって働いていく環境があり、そこで子どもの健やかな成長を支援していくことが、保育の質の向上につながるのではないかと思います。
- ・ どの市町村でも保育士が不足していますが、資格がない人を保育補助員として雇っている自治体もあるようです。

《事務局》

- ・ 資料として説明した人口一人当たりの職員数の比較は、正規職員の数です。諏訪市には、正規の保育士がだいたい110名ほどいて、諏訪市の人口約5万人で割りかえた人数を類似する団体と比較したものです。また、非常勤職員の報酬についても、他の職種に比べて賃金の水準が低いと話題となりましたが、市が任用している非正規の職員の報酬単価はそこまで低くはないと考えています。しかし、やりがいをもって働ける環境は大切なことだと思います。処遇の見直し、職場環境の改善は常に検討していかなければいけない課題だと思っています。

《委員》

- ・ 保育の質という話がありましたが、現場で子どもと関わっていると、しつけや子育てが十分できていない親が増えてきたように感じます。昔は幼稚園ではオムツが取れてから入園していただくようにしていたのですが、今はそんなこと言われません。すぐ必要だと感じるのは「親の教育」です。その背景には、頼りにする人や相談できる人がいない、ひとりで子育てをしなくてはならないといった環境が増えてきているということもあると思います。一方で、預けられるところがあれば子どもは預けてしまい、後のこともすべてそこをお願いしてしまうといった親もいて、そのような親がどうやって子育てをしていけるのか心配に思うこともあります。
- ・ 預けやすい場所がいっぱいありすぎるような環境は子育てにも直結します。働きやすい

環境だけを整えてあげることも良いとは言えないように思います。安心して子育てができる環境と働きやすい環境のバランスがとれていないと、子どもたちにしわ寄せがいつてしまうと思うのです。子育て支援はもっと総合的に考えていくべきだと思います。

《委員長》

- ・ 確かに親の育て方は昔とは変わってきているように感じます。核家族化が進み、地域とのかかわり方も変わってきました。昔は向こう三軒両隣と言って、どこの家にもでも入って行けましたが、今は地域のつながりがなくなってきている。そのような影響もあるのでしょうか、小さいうちからどっかに預けとけばいい、何かあればすぐに苦情を言えばいい、といった感覚ができてきているのかもしれない。たとえば、育成会の活動などで、子どもたちをキャンプに連れていくとき、最初は親も一緒に呼んで内容を説明するのですが、親からは、勝手にそちらでやってください という雰囲気を感じる場合があります。小学生の親のなかにも、どこかに預ければいい、預けっぱなしでいい、そういう感覚が増えてきているのではないかと心配されます。

《委員》

- ・ そのような考え方の変化が、保育所の保育士や教育現場の教員先生方の大変さにつながっていて、負担になっているのではないのでしょうか。

《委員》

- ・ これは私の友だちからの話です。その方は諏訪市の方ではないのですが、特別支援学級の講師として12月までの仕事を頼まれていました。クラスには本当にたいへんなお子さんがいたようでして、3月まで勤めてほしいと言われて悩んだようです。結局とてもたいへんすぎて12月いっぱいでもめさせてほしいと願い出たと言っていました。発達に支援が必要な子どもが増えていると聞きます。小学校に入る前の早い時期から適切な支援ができるといいと思って友だちの話を聞いていました。これからの人口減少などを考えると、保育士の数を増やしてくださいというのが言いにくかったのですが、集団の中で行動ができないお子さんというのは、かなり増えているのではないかと思います。
- ・ そのようなお子さんが保育所の中でどのような生活をしているのかを考えると、支援は1対1でないといけないと思います。保育所の場合でも、学校の場合でもそのあたりが本当にたいへんみたいで、どうしても次の先生が見つからず、校長先生とか教頭先生とか、空いている先生がそのお子さんの対応をしていると聞きました。
- ・ 発達に障がいのあるお子さんに対する予算を増やすとか、何か特別な手立てをしていくとか、これからはそのあたりもますます大切になってくると思います。

《委員》

- ・ 子どもは総数で減っていても、3歳未満児の保育需要はすごく増えています。他の委員からも意見が出されましたが、保育所では、預かった後の親子の関わり方も課題として取り組んでいるところです。
- ・ 核家族が増えて、相談するところさえも分からない保護者が増えてきているようです。友達同士で話しができるようなところがあればいいのですが、子育てに孤立してしまうような方もいると伺っています。子育て支援センターやサロンなどの交流できる場所が充実していくことが望まれます。
- ・ 発達が気になるお子さんというのは保育園でもたいへん増えています。諏訪市には未就園の子を対象にした「なかよし教室」というのがありますが、そこに通いながら子どもの様子を見させていただき、その後の支援につなげていくこともあります。
- ・ 保育や子育て支援に関係する講演会で、「人数の枠（配置基準）は超えてはいけない。それを超えるとトラブルが起きる。」といった話を聞いたことがあります。子どもの数は減っているのですが、落ち着いた環境で行う保育も大切にしていきたいと思っています。

《委員》

- ・ 気になるお子さんのことで補足なのですが、諏訪市の取り組みの中で子育て支援シートというものがあります。わたしの園でも気になるお子さんはこのシートを活用して、支援の経過を記録しています。生まれたときから継続して支援がされていく仕組みができしており、良い取り組みだなと感じています。

《事務局》

- ・ 発達が気になるお子さまは増えている傾向にあります。そのような子どもに対して、諏訪市の場合は、加配で保育士をつけるのではなく、支援が必要な子どもがいるクラスにサポート保育士を配置して、その子を含めたクラス全体をサポートする仕組みの支援をしています。特別な配慮が必要な子どもが増えていますから、子どもの育ちを考えますとサポート保育士を手厚く配置したいと思うのですが、人口減少社会というのは働き手も減ってしまう社会です。既に保育士不足などが問題とされていますが、当市においても、1年中ハローワークに求人広告を出して募集をしている状況です。
- ・ 発達支援シートについては、気になるお子さんに対して、生まれたときから社会につながるまで一貫した支援ができるように、子どもの成長に伴って担当課は変わっても、切れ目のない支援をしていくためのツールとして作成しました。母子保健から保育園、そこから小学校、社会へ上手につなげられる仕組みを大切にしていきたいと考えています。

《委員》

- ・ こども園というのはどうなっているのか教えていただきたいと思います。諏訪市にはな

いということですが、他の市町村にはあるのでしょうか。一時は「こども園」が騒がれましたが、最近はあまり聞かなくなったように感じています。

《事務局》

- ・ 認定こども園は茅野市にあります。県内でもいくつか運営をはじめています。

《委員》

- ・ 「質」の向上に関係するかもしれませんが、こども園にすると幼稚園教諭の資格と保育士資格の両方が必要であると聞いたことがあります。これから保育園に採用する職員の資格はどうなっていくのかも関心があります。

《事務局》

- ・ 新年度には岡谷市に新しい私立の保育園ができます。茅野市には認定こども園があります。実際に見ていただき、雰囲気を感じていただき、わからないことや取り組みなどを、直接質問していただくのが良いかと思います。先方との調整は必要となりますが、委員会の中で、視察などの機会を設けることも考えられますが、いかがでしょう。

《委員長》

- ・ 実際にそういう施設を視察してみると言うのは、いかがでしょうか。

-----賛成の声あり-----

《事務局》

- ・ それでは視察施設の時期はこちらに一任していただき、詳細は委員会の中で調整をさせていただきたいと思います。
- ・ 一点、皆さまにお諮りしたい提案がございますがよろしいでしょうか。このまま議論を続けていただきまとめていただいてもよいのですが、利用者などの声を集めることは必要でしょうか。必要があれば事務局でアンケートの素案を作成させていただきますので、内容を次回の委員会で検討いただくこともできます。いかがでしょう。

《委員長》

- ・ 事務局から提案がありましたが、いかがでしょうか。保護者と我々では年齢差がだいぶあります。生きてきた時代も違うもので、今の保護者の皆さんのお考えや感覚をぜひ、聞かせてもらった方がいいと思いますので、事務局でアンケートの案を作成してください。

《健康福祉部長》

- ・ 本日は貴重な議論をしていただき誠にありがとうございました。これからの議論の一番大切な部分となります 公立保育所のあり方として、保育所にどのような役割が期待されているのか、将来にわたってその役割を果たしていくにはどのようにしていくのがよいのか、この会で議論されたい内容となってきます。核家族化が進む中、地域の中の保育園として、親への支援などの役割も期待されているのかなと本日の話を聞かせていただきました。
- ・ また、発達に障がいのあるお子さまも年々増えています。サポート保育士の配置、支援シートの対応だけで良いのか、それだけでは支援が追いつかない状況も出てきています。次回は発達障がいの施策についてご紹介できる時間を設けたいと思います。
- ・ それから、近くの保育園に行かせたいのですが、定員との関係で別の保育園に行っているご家庭もあります。現状の公立 13 園の位置、規模、質、そうしたことも多角的にご議論いただければと思っております。そのための情報提供はさせていただきますので、ご希望の資料がありましたら、ご指示をお願いします。

《委員長》

- ・ 本日の委員会でご意見をいただいたように保育・子育て支援にはさまざまな課題があります。これからの保育所、幼稚園のあり方、そういうものが将来に向けてどういう方向に展開していくのがよいか配置や規模のことも考えながら、まとめていきたいと思いません。
 - ・ 保育を行ううえでは、先生たちの問題も大切ですが、子どもの数が減っていきますので、どんどんと大きなものを建てるわけにはいかないと考えますし、統廃合となれば「うちの地域から保育園をなくさないでくれ。」といった意見が聞かれるかもしれません。
 - ・ 国の政策では「子育て支援しっかりやります。」と首相がいておりました。国がどのような方法で支援をしてくれるのかわかりませんが、諏訪市の子育てがしっかりできるように議論をいただいて報告に持っていきたいと思います。それでは次回もよろしくお願ひします。
-